年金生活でも家族に負担をかけない生涯安心の支援・介護・福祉サービスとは!?

憧れの田舎暮らしを実現!

人生百年時代。リタイア後の第二の人生は、豊かな自然の中でのんびり暮らしながら、まだ叶えていない夢を一つひとつ実現したいもの。

だが、一方で、「終の住処」を探すなら、将来、支援や介護が必要になったとき、年金生活でも家族に負担をかけずに、生涯安心できる支援・介護・福祉サービスが受けられる移住先であることが大切だ。桃源郷と称される山梨県笛吹市で進行中の〝終の住処〟プロジェクトは、そんな条件をほぼ完璧に満たしていることで問い合わせが殺到しているという。本当なのか、現地を訪ねてみた。

移住当初はバリバリ元気でも、齢を重ねるにつれて体も弱ってくる。75歳以上の後期高齢者になると、否が応でも3人に1人が要介護状態になるという現実が待ち構えているのだ。介護サービスやサポートを受けるには、地域の体制が十分に整っていなければならないし、地元の人たちとのコミュニケーションがうまくとれる地域環境であることも、生涯楽しく暮らすには大きな要素。最終的には、お墓のことも問題になるだろう。

山梨県・笛吹市で展開されている「終の住処」プロジェクトは、事業主の㈱セカンドライフサポートと、地元の特定非営利活動法人「地域福祉サポート笛吹」が協動し、地方公共機関や地域協力者なども連携して、移住後の暮らしに必要なさまざまな手厚いサポートを提供してくれる。だから、大きな反響を呼んでいるのである。

セカンドライフサポートが展開!
「終の住処」事業をこの目で見てきた!!

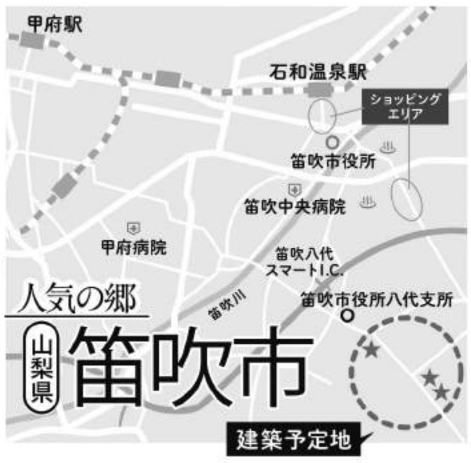
地域コミュニティーーの拠点施設「絆Cafe花鳥」

富士山を望む、桃、ぶどう、温泉の桃源郷

家庭菜園
温泉巡り
ゴルフ
渓流釣り
ウォーキング

東京から電車や車でたった90分

終の住処の田舎暮らし



「地域福祉サポート笛吹」と全面的に協働

「笛吹市の〝終の住処プロジェクト〟は、笛吹市で地域福祉活動に長年寄与している特定非営利活動法人『地域福祉サポート笛吹』や、地元の協力者の方々と協働し、移住される方が生涯安心して充実した日々を送れるように、支援態勢を長い年月をかけてつくり上げてきました」と、セカンドライフサポートの担当者は話す。

「例えば、地域コミュニティーや地域協力活動に参加したい、あるいは、農業や介護職に従事したいというご希望があれば、そのお手伝いもいたします。もし、本人やご家族に支援や介護の必要な時がくれば、『地域福祉サポート笛吹』の、都会では考えられないほど充実した支援・介護・福祉サービスが受けられるようになっているのです」。

地域福祉事業推進室のスタッフ

希望者には、家庭菜園や農作業の指導もしてくれるし、技能取得者には、受託農業の相談にも乗ってくれるというから驚いてしまう。笛吹市内に「終の住処」を取得する際には、土地の決定や新住居の建築、メンテナンスなどもセカンドライフサポートが相談に乗ってくれる。また、これまで住んでいた現住居の売却や賃貸の受託、果ては、お墓の相談（墓を建てる場合、建てない場合はどうするのか）にも乗ってくれるというから、まさに痒いところに手が届くような手厚いサポートをしてくれるわけだ。

もし、支援や介護が必要になった時は、「地域福祉サポート笛吹」による生涯安心できる通所・居宅・入所型の充実した介護福祉サービスや、地域協力活動による温かい支援、連携している医療機関の検診や治療が受けられるようになっている。これは、移住する人にとって何よりも心強いことである。

いま住んでいる住居の売却、賃貸の受託、新住居の建築・メンテを完全サポート

万全の福祉サポートを実施!

もしもの時は、総合通報システムで、すぐに介護職員が駆けつけてくれる

地域福祉サポート笛吹の「絆・介護支援センター」のそばに「終の住処」のモデルハウスが建てられている。その住まいのリビングに入ってみると、総合通報システムが設置されていることに気付く。急病などの緊急なとき、介護などを頼みたいとき、安否確認の必要なときは、「地域福祉サポート笛吹」などが通報を受信し、すぐに介護職員や地域協力者が駆けつけてくれるようになっているのだ。この「終の住処」事業のコミュニティーなら、孤独死の心配もしなくてすみそうである。ちなみに、

「終の住処」は完全バリアフリー住宅で、価格の目安は2000万円台（土地100坪以上、建物は20坪以上の2LDKか3LDK）なので、首都圏の現住居を売却して移住すれば、余りで余裕の生活ができるだろう。

セカンドライフサポートの「終の住処」事業は、「年金だけでも十分な介護が受けられるようにしないと、日本は大変なことになる」という思いからスタートしたという。

年金・健康保険・介護保険の共助制度は少子高齢化によって存続が危ぶまれている。その対策として、国は地域支援事業と地域包括ケアシステムを制定。内閣府は、大都市の介護難民、地方の限界集落化と創生に対する打開策として、大都市の高齢者が自らの意志で地方に移住し、地域社会に貢献した上で、自宅で人生の最期まで暮らせる体制づくりである〝日本版CCRC構想〟の提唱を始めている。この笛吹市の「終の住処」なら、介護難民になる心配もなく、生涯安心して理想の田舎暮らしができるのではないだろうか。

「絆　介護支援センター」

「絆・なつめの家」

「心の通った福祉をし続けていることが私たちの誇りです」

「特定非営利活動法人
地域福祉サポート笛吹」
野澤今朝幸理事長

「地域福祉サポート笛吹」を平成21年に開設したのは、営利のための事業ではなく、地域の皆様に社会貢献をしたいという熱い思いからでした。私たちは、地域福祉と社会貢献に理解と情熱を持つ役員と職員が一体となって、支援や介護が必要な方々に寄り添い、心の通った福祉をし続けていることを誇りとしています。新しく笛吹市に移住してこられる方が、安心してセカンドライフを楽しんでいただけるよう、一層の努力をしていきたいと思っています。

あらゆる人を可能な限り受け入れ、支援・介護・福祉サービスを全力で行なうことをお約束します。

「特定非営利活動法人
地域福祉サポート笛吹」
中村悦子センター長

「絆のサービスがあるから家で看続けられる。これからも頑張るよ」。あるご家族からいただいたこの言葉が今でも私の何よりの誇りであり、支えとして強く心に刻まれています。すべてのご家族にそう思っていただけることが、私の理想であり信念です。

「支援や介護が必要なあらゆる方を受け入れ、ご本人もご家族も笑顔で過ごし続けられる居場所をつくる」という方針のもと、他の施設では受け入れを拒否される重病化が進んでいる方であっても、可能な限り受け入れるために手を尽くします。年金生活の方でもご家族に負担をかけずに、住み慣れた地域の中で最期まで暮らし続けるための支援・介護・福祉サービスを全力で行なうことをお約束します。

資料請求・問い合わせ
(☎03·6304·8715)
セカンドライフサポート　検索